

波と風

理 念

思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

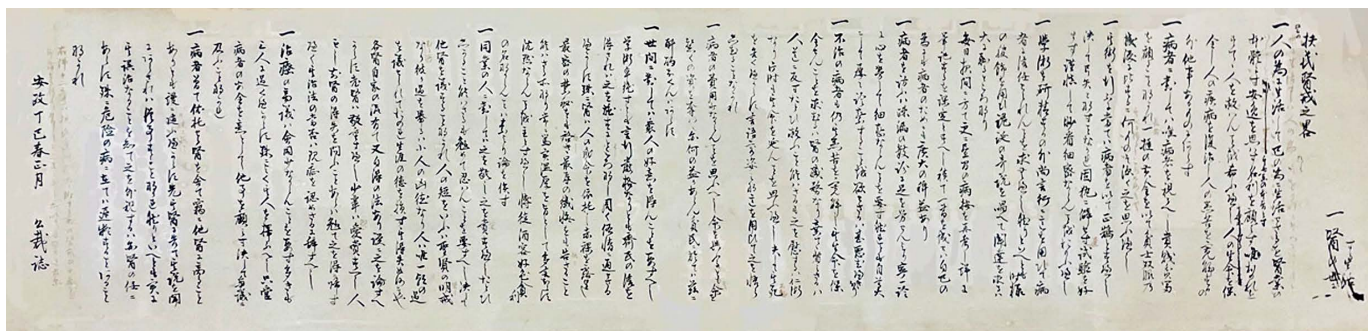
- 2～3P 新年度挨拶
- 4～9P 就任あいさつ
- 10P 第13回 院内QC活動口演発表会
- 11P 令和3年度第40回院内研究発表会
- 12P 第57回卒業式を終えて
- 13P 入学式を終えて
- 14P 看護師特定行為研修の第一期生が無事修了式を
- 15P 医療機器安全ニュース
- 16P 診療看護師（JNP）の活動について～ご紹介～
- 17P うちの部署の接遇キラリさん
- 18P 連携医療機関の紹介
（にし耳鼻咽喉科クリニック）
- 19P 我が家のスターたち
- 20P 2023年度 看護師&助産師募集・
寄付について、編集後記



緒方洪庵と国立呉病院

呉医療センター・中国がんセンター 院長 下瀬 省二

外来棟の2階に緒方洪庵の「扶氏医戒之略(ふしいかいのりやく)」の巻軸を掲示しています。朱と墨で訂正加筆され、洪庵の推敲の跡がみられます。国立呉病院時代の昭和46～56年に整形外科に勤務した、緒方洪庵の玄孫(孫の孫)である緒方晴男先生からご寄贈いただいたもののレプリカです。



扶氏医戒之略(緒方洪庵)

「緒方洪庵と適塾(梅溪昇著)」によると、緒方洪庵は、1810年、岡山県岡山市足守で生まれました。1825年、足守藩大坂蔵屋敷の留守居役となった父にしたがって大坂に転居しました。1826年に中天游の私塾「思々斎塾」に入門し、蘭学、特に医学を学びました。1831年に江戸へ出て蘭学者の坪井信道の門下生となり、さらに薬品の研究のため宇田川玄真に学びました。1836年には長崎で開業するかたわら、オランダ人プラゲ著の薬物処方書を翻訳しました。1838年に大坂で開業した際、蘭学塾「適々斎塾(適塾)」を開きました。

洪庵は、2つの大きな業績を残しています。1796年にジェンナーが天然痘に対する牛痘種痘法を発見し世界に普及していきました。1849年に牛痘のかさぶたが長崎のオランダ商船医モーニケのところに届き、日本ではじめて種痘が成功しました。その後、京都において届いた牛痘苗で種痘が成功したことを聞いた洪庵は分苗を依頼して大阪古手町に「除痘館」を開き、分苗式による治療を開始しました。1858年には官許を受け、古手町種痘所の1か所においてのみ種痘を行うことになりました。

1858年に長崎に発生し全国に広がったコレラの治療

法として、当時は長崎の蘭医ボンペの口授を松本良順が訳したものと洪庵の「扶氏経験遺訓」の一節しかなく、しかも両書の説はかなり異なっており、混乱を招きました。洪庵は、モスト、カンスタット、コンラジの書いた3つの医学書中のコレラに関する項目を急いで翻訳し、「虎狼痢治準(ころりちじゅん)」という小冊子を出版、非常の場

合における適宜の処置を示し治療の指針となりました。

洪庵は、優れた教育者として適塾において数多くの英才を教育しました。適塾は洪庵の号である適々斎に基づいて「適々斎の塾」、また略して「適々塾」、さらに略して「適塾」と呼ばれていました。塾生のひとりである福沢諭吉の「福翁自伝」によると、およそ勉強ということについては、この上にしようもないほどに勉強したと述べています。「一日の生活は、夕食のとき酒があれば飲んで宵に眠り、10時ごろ目が覚めると読書して夜明けにおよび、台所で朝食の支度の音が聞こえるのを合図に寝につき、その出来るころ起きて風呂に入り朝食をすまして書を読むというのが平常であった。」と述べています。

洪庵の学問的思想を示すものが「扶氏医戒之略」です。洪庵が「扶氏経験遺訓」の原著 Enchiridion Medicum の巻末にある「医師の義務」と題する付録の一篇に感動してこれを抄訳し、1857年に12カ条の日本語に要約したものです。この12カ条はフーフランドの記述に由来しますが、洪庵の思想と理解されています。

現代風に意識すると以下ようになります。

1. 人のために生活して、自分のために生活しないことが医業の本当の姿であり、自分を捨てて人を救うことのみを願うべきで、人の生命を保ち、疾病を回復させ、苦痛を和らげる以外の何ものでもない。
2. 患者を診るときは決して身分や金持、貧乏を診るのであってはならない。
3. 治療を行うにあたっては、自己流にこだわることなく、常に謙虚に観察し、かつ細心の注意をもって治療を行わなければならない。
4. 医学を勉強することは当然であり、自分の言行にも注意して、患者に信頼されるようであればならない。
5. 毎日、夜は昼間に診た病態について考察し、詳細に記録することを日課とすべきである。
6. 患者を大ざっぱな診察で数多く診るよりも、心をこめて、細密に診ることの方が大事である。
7. 不治の病気であっても、その病苦を和らげ、その生命を保つようにすることは医師の務めである。たとえば救うことができなくても、患者を慰めることを仁術という。
8. 医療費はできるだけ少なくすることに注意すべきである。
9. 世間のすべての人から好意をもってみられるよう心がける必要がある。たとえ学術が優れ、言行も厳格であっても、衆人の信用を得なければ何にもならない。医師たるものは篤実温厚を旨として多言せず、むしろ沈黙を守るようにしなければならない。
10. 医術にはそれぞれの医師のやり方や、自分で得られた独特の方法もあり、みだりにこれらを批判することはよくない。とくに経験の多い医師からは教示を受けるべきである。
11. 治療について相談するときは、あまり多くの人としてはいけない。多くても三人以内の方が良く、人選が重要である。ひたすら患者の安全を第一として患者を無視して言い争うことはよくない。
12. 患者が先の主治医をすてて受診を求めてきたときは、先の医師に話し、了解を受けなければ診察してはいけないが、その患者の治療が誤っていることがわかれば、それを放置することも、また医道に反することである。

適塾の門下生の記録として「姓名録」(1844 - 1864)が残されており、636名の姓名、入門年、出身地がわかっています。岡山県は洪庵の郷里である足守があり、64名と2番目に多い適塾生がいました。津下精斎は、弟の島村鼎甫が適塾に入門したのを機に、西洋医学の必要性を実感し33歳で適塾に入門しました。精斎は、洪庵が中国・四国地方の旅行の際の従者として選ばれています。

広島大学整形外科の2代目の教授である津下健哉先生は、手の外科で世界的に有名です。私が学生の頃、「atraumatic」に組織を扱うことの重要性を述べられた講義の印象が強く残り、整形外科医を志すきっかけのひとつになりました。広島大学整形外科に勤務していた時、津下先生から「津下精斎・鼎甫(島村)兄弟と石井宗謙・信義親子及びその周辺」をいただきました。その時には気づきませんでしたが、くわしく読んでみると、5代目の津下古庵の長男が津下精斎、次男が島村鼎甫です。3代目の津下古庵の息子で古庵を継がなかった息子のひとりが要介であり、その6代後が津下健哉先生でした。

呉医療センターに勤務して、緒方洪庵の「扶氏医戒之略」と「津下精斎・鼎甫(島村)兄弟と石井宗謙・信義親子及びその周辺」が結びつきました。同じ時期に活躍された整形外科医として、津下健哉先生と緒方晴男先生に接点はなかったのだろうかと思ふ縁を感じています。「扶氏医戒之略」にある医療者としてのあるべき姿と、津下先生の教えにある組織を大事に扱い自然の治癒力を阻害しないという治療の基本は、今も変わっていません。



緒方洪庵と適塾(梅溪昇著)



津下精斎・鼎甫(島村)兄弟と石井宗謙・信義親子及びその周辺(津下健哉著)



就任あいさつ

副院長 繁田 正信

この度、令和4年4月1日より副院長に就任致しました。歴史と伝統ある呉医療センター・中国がんセンターの副院長職に就任するに当たり、その重責を考えると身のすくむ様な緊張に苛まされますが、最大限努力して職務を全うしたいと思います。

私は平成18年6月に当院泌尿器科科長として、広島大学医学部附属病院から赴任いたしました。以来、約16年間当院でお世話になり、医者人生において最も長い期間勤務させていただいております。私ごとで恐縮ですが、私は呉市出身で、出身高校も呉宮原高校です。高校時代に毎日、通学時に当院の横を歩いて通学しておりました。その当時は、まさか自分がこの病院に勤務することになるとは思ってもいませんでした。生まれ故郷の医療に携われることになり、非常に幸せに思っております。人生とは面白いものです。

思えば、この16年間で、多くの医師が退職、転勤され、気が付くと私より当院での勤務年数が長い医師は数える程しかおられなくなりました。その間、様々な出来事が当院を通り過ぎましたが、医師のみならず、全職員の一致団結した働きにより、乗り切って参りました。

最近では、100年に一度と言われる新型コロナウイルス感染症が日本のみならず、全世界に拡散し、これまで経験した事のない様な変化が全社会に生じています。従来日常で行われていた事が感染リスクとされ、人との交流も儘ならぬ状況に陥っております。院内でも同様で、様々な感染対策がとられる中で、ウイルスの変異により、その都度、対応を変えていかざるを得ない状況が約2年半も続いております。この間、私は感染対策室長として、その前面に立って、日々苦悩しておりました。この間に、当院のみならず地域の医師、看護師、保健所等、医療に携わる全ての職種の方々と共に議論し、助けて頂きながら対策を講じておりました。この職務を通じて、チーム医療の大切さを切実に痛感致しました。

今後は、新たな職務も行うことになると思いますが、まだまだ不慣れで、不勉強です。チーム全員の意見をよく聞き、共に考え、悩み、少しでも正しい方向に導ける様、頑張る所存でございます。皆様のご助言、ご助力を宜しくお願い申し上げます。





就任あいさつ

外科系診療部長 立川 隆治

この度、本年4月より外科系診療部長に就任致しました。2014年4月に当院に赴任し、8年が経過し、外科系医師の中でも年長医師の仲間入りとなり、このたび命を受けました。これまでの耳鼻咽喉科・頭頸部外科という単科の診療科の運営と違い、外科系全体の医師の中で意見を聞き、可能な範囲でそれらに対応するよう努力してまいります。

直近の対応としましては、コロナ感染症を中心とした対応が挙げられると思います。

本感染症は当院のみならず全国的の医療施設で多様の診療変化をもたらしました。

外科系診療科では感染が病棟、手術室、救命センターなど部門を超えて拡大するため、感染力や重症化リスクの変化に対して、新たな対応を模索することが要求されます。手術を受ける方がより安全に安心して手術を受け

ることができるように、過去の実績や他施設における事例を踏襲しながら関連部署のスタッフとともにより適切な対応をする努力をしていく所存です。また、コロナ感染の影響で救急外来の対応についても大きな変化が生じています。本年4月より体制が一新され、より迅速な救急対応を行えるようにスタッフの構成が変わりましたが、スタッフの増員ではなく、内科・外科系医師の協力のもと既存の各科の医師が救急外来の仕事を兼務することによる体制の変化となります。今後も感染の様相やフェーズが変わるごとに、常に新たな対応をとり続けることになると思いますが、これらについても内科系の先生方と連携をとりながら、迅速で安全な医療を提供することができる様努力して参りますので、宜しくお願い致します。



就任あいさつ

中央診断センター部長 磯部 尚幸

令和4年4月1日より中央診断センター部長を拝命いたしました脳神経外科の磯部です。

中央診断センターは、令和3年4月に『リウマチ・膠原病科』の開設に伴い、現在は臨床検査科と病理診断科の2部門から構成されています。

臨床検査科は、一日あたり700から800人分の血液尿検査や生化学検査の他、細菌検査に生理機能検査および輸血関連業務に加え、この2年間はコロナ禍に伴う院内PCR検査の対応も加わる中、日々迅速かつ正確に検査結果を報告しています。

一方病理診断科も、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤の開発、更にはがんゲノム医療など新たな『がん治療』の展開により、その業務は年々複雑化し検査

項目や診断項目と共に依頼件数も増加してきています。またオートプシーボード(CPC)を開催し、研修医教育としてのCPCレポート作成にも携わり、当院の『がん治療』の屋台骨を支えています。

このように両部門とも多忙な業務環境が続いておりますが、当センターが理念の一つに掲げている『質の高い医療提供』をスタッフが気持ちよく円滑に実践できるよう対応していきたいと思っております。

令和2年4月にJA尾道総合病院から当院に赴任し、まだ当院では2年足らずの新参者に皆様には御迷惑をおかけしてしまうことが多々あろうかと存じますが、少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、御指導御支援の程、宜しくお願いいたします。



就任あいさつ

医療情報部長 清水 洋祐

この度、令和4年度4月1日より前鳥居部長の後任として医療情報部長に就任いたしました清水洋祐と申します。よろしくお願い申し上げます。7年間の地域連携室室長から移動です。

医療情報部とは？私にとっては正直なじみの少ない分野です。ご存じかもしれませんが、当院の医療情報部の業務内容は、システム運用管理と診療情報管理の2本柱です。

1. システム運用管理

2005年より導入した電子カルテを中心とした医療情報システムを管理し、いつでも院内のどこからでも診療に必要な情報が得られるようシステムを運用構築しています。システム化要望の取りまとめ、仕様確認、進捗管理などの開発業務、ハード・ソフトの保守管理業務、システムの問題管理、仕様変更管理などのシステム運用、広島県医師会が運営するHMネットへの診療情報公開、病院職員への端末操作補助などの業務を行っています。

また、システム更新時の要件検討やシステム関連機器の選定などの業務も行っております。

2. 診療情報管理

総勢26名のスタッフを擁し、具体的な業務内容としては、・DPC業務・院内がん登録・サマリー作成・診断書作成支援・診療録監査・データ検索依頼などです。診療情報の適切な運用・管理を行い、さらに診療情報が有効に活用できるよう取り組んでおります。また、サマリー作成や診断書作成など医師の業務軽減にも尽力しております。

近年、医療制度の改定や個人情報保護、医療安全への関心の高まりなどにより医療情報はさらに重要な役割を求められています。力の及ばない点多々あるとは思いますが、微力ながら精一杯努めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



就任あいさつ

看護学校 副学校長 橋本 一枝

この度、山下久美子先生の後任として副学校長に就任いたしました橋本一枝と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

前任地は鳥取県にある米子医療センター附属看護学校で、6年間勤務しておりました。

自宅は呉市内にあるため、久しぶりに自宅からの通勤が可能となりました。3月までは、片道約3時間半の道のりを週末移動していたため、体内時計の調整にもう少し時間がかかりそうです。

呉看護学校は、平成17年4月から平成26年3月まで教員として9年間勤務させていただきました。今回学内施設の案内を受けた時には、当時の出来事が懐かしく思い出されると同時に8年の月日は確実に経過していることを実感いたしました。

しかし、当時の思い出に懐かしく浸ってばかりもいたしません。近年の少子化は看護師養成所を取り巻く状況にも大きく影響しております。加えて看護大学が優位に立つ

時代となり、養成所の運営方針に関する検討が各国立病院機構附属養成所でもなされています。当校の場合も機構本部や中国四国グループとの検討が再三なされました。その結果、令和5年度の入学生から一学年定員40名という運営方針が決定いたしました。運営方針が決定したのちも毎年度運営状況を概観するために、機構本部が打ち立てた基準について（1. 応募者数 2. 入学者充足率 3. 国家試験合格率 4. 卒業率 5. 機構内や県内への就職率 6. 母体病院の経営）の評価が求められます。

今年度は、一学年定員80名最後の年となる第60回の入学式で62名の新入生を迎え、学生総数220名でスタートいたしました。当校の教育理念「生命尊重と人間愛を基盤に、実践力のある看護者を育成する」のもと、在校生の皆さんの看護師国家試験合格に向けての学習支援ができるよう、学校長先生をはじめ学校職員の皆様と協力しながら、精一杯尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。



就任あいさつ

事務部長 徳臣 雅彦

この度、令和4年4月1日より福山医療センターから異動して参りました徳臣雅彦です。どうぞよろしくお願いいたします。

呉医療センターでの勤務は3回目となりました。最初の勤務は平成10年4月からの3年6月間で施設管理係長として病院建替整備に携わっておりました。

ちょうどB病棟側の工事が始まった頃で病棟完成後、外来管理棟の建築へと進み、平成13年9月に外来の移転が終わった1週間後に異動となりました。

当時は現地での建て替えであったため、工事期間中は新旧の建物が混在し、駐車場の制約や仮設の外来設置、度重なる引っ越し、台風による大停電への対応など目まぐるしい日々を送りました。

しかしながら、B病棟が完成した時には病院の主要機能である、救命救急センターや手術室の稼働、様々な放射線・検査機器の導入など、初めての経験ばかりでしたが、各部

署の方に指導や助言をしていただき事務職としては貴重な経験をすることが出来、現在でも自身の大きな財産となっています。ちなみに現在の医事・医局となっているところは当時の附属リハビリテーション学院(PT・OTの専門学校)の建物だったところで、外来棟への改修の際には現医療技術センターに移転する整備も担当しておりました。

現在、国立病院機構においても新型コロナウイルス感染拡大の影響により、患者数が減少しており厳しい経営状況が続いています。今後も患者数の回復は難しい状況であり、超少子化の影響も相まって病院経営には強い逆風が予測されます。また、医師の働き方改革などへの対応も迫り難しい舵取りが迫られています。当院の役割である高度医療の提供と地域医療の確保が今後も重要な課題であり、皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えておりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。



就任あいさつ

薬剤部長 藤田 秀樹

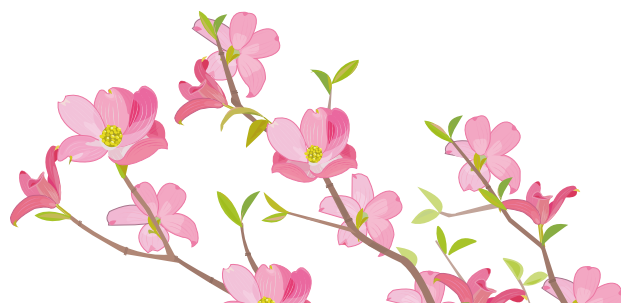
この度、令和4年4月1日より着任いたしました藤田です。よろしくお願いいたします。出身は広島県広島市ですが、現在は島根県松江市に居を構えております。単身赴任8年目です。

薬剤師として広島大学附属病院薬剤部研修生からスタートし、松江医療センターで採用となりそれから、広島西医療センター、関門医療センター、米子医療センター、松江医療センター(2度目)、米子医療センター(2度目)、長島愛生園、関門医療センター(2度目)、呉医療センターと大きな施設、小さな施設、ハンセン施設と様々な施設を経験してきました。中国5県は制覇しています。岡山県の施設にもう一度異動することができれば2週目も制覇できたのですが、残念です。

ここ数年は、コロナ感染症より医薬品の供給が不安

定になり手配に苦労したことや、ワクチン接種、コロナ治療薬の適正使用における情報提供などに翻弄されておりました。呉医療センターにおいても状況は変わらないと思いますが、薬剤部としてはまず医療安全および部下たちのスキルアップを目標として頑張っていきたいと思っています。

皆さんにご指導いただきながら精一杯努めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。





就任あいさつ

教育主事 竹本 綾美

この度、令和4年4月1日より岡山医療センター附属岡山看護助産学校から異動して参りました竹本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、本校を卒業し助産学校に進学後、呉医療センターで7年間助産師として勤務しました。ちょうど病棟移転、電子カルテの導入、二交代制の開始などがあり師長さんを始め病棟のスタッフ皆で、業務を見直しながら新しいシステムを取り入れ、「変化に対し前向きに取り組むこと」を学ばせていただきました。その後岡山医療センターに転勤し、新生児医療センターで3年間の経験を経て、看護助産学校で12年教員として過ごして参りました。

呉には16年ぶりに帰ってきましたが、町の風景や病院と看護学校の様子一つ一つが懐かしく、暖かく感

じられます。

この2年間は新型コロナウイルスの影響で臨地実習に行けない日々が続き、改めて看護基礎教育とは何かを立ち止まって考える機会となりました。そして、先が見えない日々の中でも、学生の看護に対する純粋な思いを強く感じているように思います。

今年度からは新カリキュラムが開始となり、多様化・複雑化するケアニーズに対応できる看護職者を育成することが求められています。このため臨床の方々との連携をはかり、新たな教育方法を構築していければと思います。

微力ではありますが、皆様と協力し精一杯努めて参りたいと思います。どうぞご支援・ご指導のほどよろしくお願いいたします。



就任あいさつ

管理課長 桑本 貴幸

この度、令和4年4月1日より管理課長に就任いたしました桑本と申します。出身は鳥取県ですが、平成3年に現在の東広島医療センターに採用されて以来、東広島市を生活の拠点として4カ所目の病院勤務となります。前任地の松江医療センターでは5年半の間、単身赴任生活をしておりまして、久しぶりに東広島市にある自宅からの通勤となります。十年前であれば呉市内の通勤ラッシュが凄くて、とても通うことは考えられませんでした。現在は東広島・呉自動車道が整備されたおかげで、50分程度で通勤できるようになり、苦もなく通勤できる環境となっています。また、毎日家に帰ると愛犬が大喜びで尻尾を振りながら玄関まで出迎えてくれますので、癒されながら生活を送れています。

1日も早く仕事に慣れて、呉医療センターの一員として認めていただけるよう精一杯頑張っていきたいと思います。微力ではございますが、ご支援ご指導のほどよろしくお願いいたします。





就任あいさつ

副看護部長 東 百合子

はじめまして副看護部長の東(あずま)と申します。
令和4年4月1日より浜田医療センターから異動してまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

出身は島根県の山間部にある邑南町で、看護学校から地元を離れ、岡山、浜田で看護師として看護師長として経験を積み、ご縁があってこの度、広島県呉市に参りました。

私は、昔から外に出かけるときやイベントの時は、やたらと雨に降られてしまういわゆる雨女でして、呉に引っ越しできた日もやはり雨でした。雨女について検索してみると、龍神様の霊に守られており雨と同時に幸運を呼び寄せる、トラブルが起きても助け船が

出てくるという魅力的な特徴もあるようです。

呉医療センターは大規模病院であること、久しぶりの転勤も重なり、緊張していましたが、グリーンストラップ(新人の証で1年間着用)のおかげもあって、多くの方が声をかけてくださり、心強く安心できました。看護は心を通わせる仕事であり、忙しさの中でも呉医療センターの看護師の皆さんが明るく、また患者さんにとっても来てよかったと思える看護師を育てていきたいと考えています。

力不足の点は多々あるかと思いますが、全力を尽くして取り組んでまいりますので、ご支援ご指導のほどをよろしくお願いいたします。



第13回 院内QC活動口演発表会

院内QC活動運営委員会 委員長
統括診療部長 大庭 信二



令和4年3月2日(水)に、院内QC活動口演発表会を開催いたしました。昨年度は新型コロナの影響により、ポスター発表のみでしたが、今年度は感染防止対策を十分に行い、口演発表まで行いました。

院内QC活動口演発表会には、令和3年11月24日から令和3年12月3日で行われたポスター発表の11題のうち、職員の投票により決定した6題が口演発表を行い、参加した職員による投票の結果、以下のとおりとなりました。

順位	区分	タイトル	部署
1	最優秀賞	呉2020+1 自分を守れ! (ガウンが) あついコロナ攻防戦	10A病棟
2	優秀賞	全集中 転倒防止の呼吸 移乗トレーニングの型	臨床検査科・リハビリテーション科
3	3位	MTS!! (待たせないプロジェクト) スムーズな診療を目指して ～中央処置室での取り組み 採血編～	外来
4	特別賞	ニューノーマル～新しい処方支援のカタチ～	薬剤部
5	特別賞	パソコン整理で金メダル.2020	3A病棟
6	特別賞	SPD物品の運用の適正化	8A病棟

また、投票の結果を集計している際には、令和3年度国立病院機構QC活動奨励表彰に推薦しました6題のうち3題がグループ優秀賞を受賞し、本部での表彰式が新型コロナにより開催されなかったことから、当院で授与式を執り行いました。こちらの演題については、令和元年度と令和2年度に国立病院機構QC活動奨励表彰が中止となったことを受け、それぞれの上位3題の合計6題を推薦し、そのうち3題が全国の国立病院機構の職員や審査員である理事長などの投票で受賞が決定されたものです。

区分	タイトル	チーム名
優秀賞	あなたの退院、お手伝いします	7B病棟
優秀賞	ちゃんと洗濯物を分けんさいやー!!	クリーニングレディース
優秀賞	簡易懸濁 シリンジそのまま置きTOK	Oi TOK



院内QC活動口演発表会



国立病院機構QC活動奨励表彰

令和3年度第40回院内研究発表会

臨床研究部長 田代 裕尊



本年度の院内研究発表会は、令和4年3月5日土曜日に開催されました。下瀬院長による開会挨拶に続き午前8時55分より発表が始まり、合計18演題の報告がありました。内訳は、症例発表7演題、臨床研究5演題、業務改善事例2演題、その他2演題、特別講演2演題でした。これらの分類は演題申し込み時の申請に基づいています。

症例発表7演題のうち1題は医師(研修医)、3題は看護師(7B病棟、NST委員会)、3題は作業療法士(リハビリテーション科)でした。臨床研究5演題のうち3題は医師(総合診療科、呼吸器外科、外科)、1題は看護師(7B病棟)、1題は言語聴覚士(リハビリテーション科)でした。業務改善事例2演題のうち1題は診療情報管理士(診療情報管理室)、1題は看護師(8A病棟)でした。その他2演題は薬剤師(薬剤部)、教員(呉看護学校)でした。

特別講演は臨床検査科の石川 洸先生による「消化器癌における Annexin A10 の臨床病理学的重要性 The clinicopathological significance of Annexin A10 in Gastrointestinal Cancers」、山下 芳典副院長による「栄養管理の極意、臨床研究とエビデンス」の講演でした。

筆頭発表者の職種別頻度は、医師5人、初期研修医3人、薬剤師1人、看護師5人、診療情報管理士1人、教員(呉看護学校)1人、言語聴覚士1人、作業療法士1人でした(図1)。

今回の発表時間は7分、討論3分で行いました。

座長は、医師3人、看護師1人、理学療法士1人が担当しました。座長未経験者には座長心得を用意しました。参加者は初期研修医・医師23人、看護師21人、薬剤科10名、臨床検査科2人、病理診断科2人、栄養管理室2人、リハビリテーション科5人、診療情報管理室5人、看護学校4人、企画課1人、臨床研究部3人の合計78人でした(図2)。

会場にて院長からの

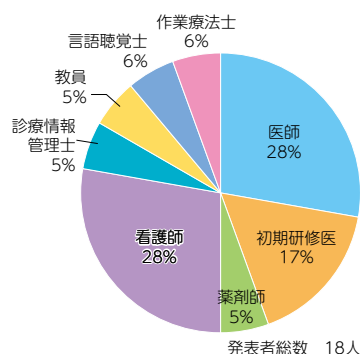


図1 発表者職種別頻度

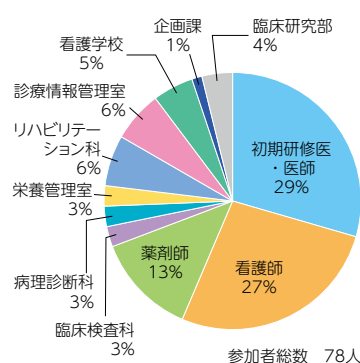


図2 参加者比率

差し入れられたシフォンケーキ120個、臨床研究部長から差し入れられた飲み物100本は新型コロナウイルス感染症の対策として持ち帰ってもらいました。総評として、終始和やかな雰囲気の中で活発な討論が交わされました(図3)。発表内容は各職種とも臨床研究や業務改善に進めようと感じられる発表が多くありました。発表者の業種も多数あり、様々な討論を行う事ができ、今後当センターの臨床研究がより精度の高いものになると期待されます。またこれらの成果を展開し、積極的に論文化していくことも重要だと考えられます。

本院内研究発表会は40回と数えたが、今後も各本面から広く演題を集め、また今回のような研究熱を高めていきたいと考えています。

後日の幹部会議にて優秀発表3演題が決まり、管理診療会議にて表彰を行いました(図4)。

優秀発表演題は以下の通りです。

1) 臨床評価指標の改善に向けた取り組みについて

○古山 卓也¹⁾、大庭 信二²⁾、鳥居 剛³⁾、小早川 儀雅⁴⁾、久保 めぐみ¹⁾、堀江 あゆみ¹⁾、診療情報管理室¹⁾、統括診療部長²⁾、医療情報部長³⁾、経営企画室⁴⁾

2) 口腔ケアの充実を目指し、OHATを活用した取り組み

○喜多 あや 8A病棟

3) 腸腰筋指数とGoddard scoreは肺癌術後 outcome の予測因子となるのか

○坪川 典史、田所 和樹、三村 剛史、山下 芳典
呼吸器外科



図3 会場光景



図4 表彰光景

第57回卒業式を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 教員 天野 志保



令和4年3月2日、第57回卒業式が挙行され80名が卒業しました。卒業式は、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年前から卒業生のための縮小した開催となりました。しかし、今回は皆様のご協力のおかげで、保護者の皆様にもご臨席頂くことができ、関係者の皆様に深く感謝いたします。

第57回生は、オンライン授業が開始となる等、授業方法が変更されながらも無事に単位修得ができました。その中でも臨地実習は、ほとんどが実践活動外学習に変更となり、臨床で患者さんと関わり関係性を築

いていく過程や、五感を活用して看護を行う経験の機会が少なくなっていました。しかし、その数少ない臨地実習では、日常生活援助をはじめとする様々な看護の実践場面を通して、個別性を持った看護の提供の重要性について学ぶことができました。そして、臨地実習での学びから、卒業前には一人一人が、自分の目指す看護を語ることができるように成長しました。

これからも、自分たちが理想とする看護師を目指し、経験を積み上げながら、後輩から理想とされる看護師として活躍してくれることと期待しています。



記念写真♪

学校長先生にご挨拶♪

～謝恩会はできませんでしたが、袴を着ました～



入学式を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 教員 小林 真弓



令和4年4月6日、心地よい日差しと桜が舞う中、62名の新入生を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、看護学校での行事も中止もしくは縮小されてきましたが、2年ぶりに病院敷地内にある体育館で、保護者の皆様にも出席いただき、入学式を挙行することができました。新入生の晴れ姿を見ていただくことができ、安堵しております。

新入生は真新しいスーツに身を包み、やや緊張した面持ちでした。その一方で、これから始まる学校生活や仲間との出会いに期待を抱いているようでした。学校長からの「患者さんに寄り添えるよう、豊かな人間性と深い知識を持つ看護師となって欲しい」との祝辞を、真剣な眼差しで聴いていました。これから看護学生として歩み始めることを実感したのではないかと思います。少しずつ学校生活に慣れ、看護学生としての態度を身に付けながら、専門的な知識・技術を習得してもらいたいです。

依然として新型コロナウイルスが猛威を振るい、医

療現場の困難な状況は続いています。様々なニュースから看護師という仕事の責任の重さや感染の危険性があることを新入生もすでに知っていると思います。しかし、新入生は「幼少期より看護師になりたかったです。」「ようやく夢への一歩を踏み出せます。」と目を輝かせており、強い意志を持って看護師を目指してくれたことを、とても頼もしく思っています。これから看護学校での講義や技術練習、実習といった様々な学習を通じて、どのような看護師になりたいかを明確にしていき、立ち止まった時には入学式の時に抱いていた希望を思い出し、励みにしてもらいたいです。

今年度はこれまでできなかった行事を、感染対策をしつつ工夫しながら、開催していく予定となっています。そのため新入生と在校生が連携し協力していく機会が増えると思います。それらの様々な経験を通じて学生達がより成長していくことを願っています。これからも、教職員一同でしっかりと学生達を支えていきたいと思っています。



看護師特定行為研修の第一期生が無事修了式を

前副院長（令和4年3月退職） 山下 芳典



診療看護師に引き続き特定行為研修の制度が始まりました。2025年に向けて、さらなる在宅医療等の推進を図っていくためには、個別に熟練した看護師のみでは足りません。そこで、医師又は歯科医師の判断を待たずに手順書（※）により一定の診療の補助を行う看護師を養成し確保していく必要があることから、研修制度が創設されました。この研修を受け所定のカリキュラムを履修することで、医師による施行が限定された医療行為を、手順書により看護師自身ができるようになります。制度創設の目的に加え医師の荷重労働を緩和するという医師の働き方改革にもつながる可能性が広がります。さらに本院では看護師のキャリアアップという観点からこの制度をとらえ、看護師の受講を積極的に推し進めています。広島県内では本院を含む3施設が指定研修機関として選出され、本院は「救急領域」というパッケージでの研修が可能な施設として指定を受けました。「救急領域」は、迅速な対応が求められる2次又は3次救急医療の現場において、頻繁に行われる処置が必要な患者を想定して設定された研修内容です。研修機関として指定を受けて以降、本院では慎重に研修の実施に向けて準備してまいりました。とりわけ医療安全に関しては、看護師が行う医療行為一つ一つに対して厳格な手順書を作成し、知識と技術を繰り返し確認していく研修システムを構築しています。一方で受講者にとっては10か月の厳しい研修を全うする必要があり、そのため所属する病院業務を休まなければならない、高額な費用負担も発生します。

初年度の令和3年には院外、院内それぞれから計2名の応募がありました。研修を受講するためには試験があり、2名とも自らの看護の立場をステップアップしようとする熱意が試験官に伝わり、問題なく合格しました。研修にはWEB上での自主的な事前準備、専門講師による動画を交えた座学を中心とした学習、そして本院で指導医師や看護師の監督下での救急部や手術室の臨床現場での実習を行いました。その結果、

定められた実地研修の必要件数を満たし、筆記試験合格を経て、令和4年3月23日に、第一期生の2名の修了式を無事に執り行うことができました（写真）。研修を終えた2名の修了者は、厳しい研修を終えた達成感からか、満面の笑顔で修了証を受け取りました。その笑顔からは、熱意を持つ看護師の向上心に応えるためにこの研修は格好の制度と強く感じられました。この第一期生の2名がそれぞれの病院に復帰し、スキルアップした活躍ができることを心より祈るばかりです。

この研修制度がレベルアップした看護師を養成し、受講修了者が所属する病院へ貢献するだけでなく、本邦の医療全体に好影響をもたらすものと確信しています。始まったばかりのこの制度には課題も感じられ、今後改善していかなばなりません。本院では各診療科、部署からたくさんの医療者の協力が得られましたが、指導する側に過労働となる傾向が感じられました。また何より重要な視点として、特定行為研修として効果的でふさわしい内容であったのか、受講生が如何にインセンティブをもってキャリアアップできるのか、さらに医療をどのように変えて行くのか、しっかり見守っていきたいと思います。本年度の令和4年には新たに二期生となる2名の受講生を迎えます。患者の皆様へ安心安全な医療を提供するという大原則の下、たくさんのスタッフがチームとして丸となって、慎重に特定行為研修に取り組んでいく所存です。何卒ご理解いただくようお願い申し上げます。

※）手順書とは、医師又は歯科医師が看護師に診療の補助を行わせるためにその指示として作成する文書のことです。具体的には以下の6点が定められていなければなりません。

- ①看護師に診療の補助を行わせる患者さんの病状の範囲
- ②診療の補助の内容
- ③当該手順書に係る特定行為の対象となる患者さん
- ④特定行為を行うときに確認すべき事項
- ⑤医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合
- ⑥特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法



医療機器安全ニュース

現代の医療では生命維持や治療に医療機器は不可欠です。これらの医療機器も操作や管理を誤れば重大な事故を招き、死に至るケースさえあります。

ME 管理室では、医療事故防止、安全対策の向上を目的とした医療機器安全ニュースを年に 2 回発刊しております。

第22回「小型シリンジポンプ」

小型シリンジポンプは薬剤の微量持続注入を目的とし、疼痛緩和が必要な患者様への麻薬投与に使用しています。今回はその小型シリンジポンプをテーマに特徴や使用方法、注意点等について説明していきます。

【小型シリンジポンプの特徴】

小型シリンジポンプは小さく、重さは約 330g と軽量のため携帯することにも適しています（図 1）。

また、使用できるシリンジは 5ml と 10ml の 2 種類です。



図 1 シリンジポンプ（左）と小型シリンジポンプ（右）の比較

【小型シリンジポンプの各名称（図 2）】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ①電源ランプ | ⑤液晶画面 | ⑨スリット |
| ②電源ボタン | ⑥流量変更ボタン | ⑩スライダーフック |
| ③開始/停止ボタン | ⑦動作インジケータ | ⑪スライダー |
| ④早送りボタン | ⑧シリンジクランプ | |

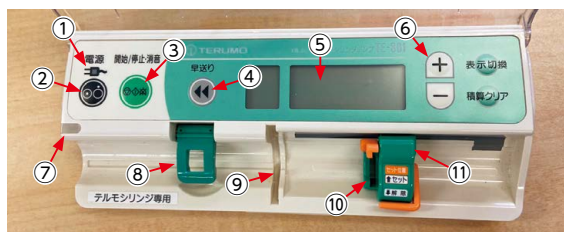


図 2 小型シリンジポンプの各名称

【小型シリンジポンプの開始手順】

①バッテリーのセット

- 図 3 のように、本体側面にあるカバーロックをマイナスドライバー等で解除しバッテリーを挿入してください。
- ※バッテリー未挿入の状態で電源をつけた場合、電源ランプが点滅してアラームが鳴ります。



図 3 バッテリーのカバーロック

② AC アダプタの接続

- AC アダプタ（図 4）を本体と AC 電源にそれぞれ接続します。



図 4 ACアダプタ

③電源投入

- 電源ボタンを押し、セルフチェックが完了するまで待ちます。

④シリンジのセット

- シリンジのフランジをスリットに入れ、シリンジの押し子はスライダーフックにセットします。シリンジが外れない



図 5 シリンジサイズ表示

ようシリンジクランプを降ろし固定します。この時、液晶画面表示部のシリンジサイズ（図 5）と使用するシリンジサイズが一致することを確認してください。

⑤プライミング

- 早送りボタンを押し、輸液ラインのエア抜きを行います。その時、押し子とスライダーの間に隙間がないことを確認します（図 6）。
- ※押し子とスライダーの間に隙間があると、開始後しばらくの間薬液が送液されません。

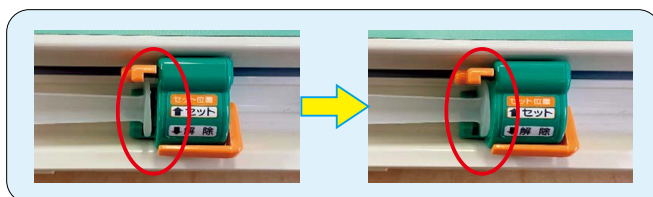


図 6 押し子とスライダーの隙間

⑥流量の設定

- 液晶画面横の + と - ボタンで流量を設定します。
- 設定できる流量は右の表 1 の通りです。

シリンジ	5ml	10ml
最低流量	0.05ml/h	0.05ml/h
最大流量	30ml/h	60ml/h

表 1 設定流量

⑦開始

- 開始ボタンを押して開始します。その際、動作インジケータが緑に点滅することを確認してください。

【小型シリンジポンプの医療事故例】

- シリンジの残量を確認するため訪室したところ、シリンジの残量が減っていないかった。アラームは鳴っておらず、ルートを確認すると三方活栓が閉栓していた。
- 投与量が微量のため圧上昇が遅く閉塞アラーム発生までに時間がかかり、閉塞に気付くのが遅れてしまった事例です。開始する際は必ずルートの閉塞がないか確認してください。また、閉塞時はシリンジ内に圧力がかかった状態であるため、不用意に閉塞を解除すると過剰投与の原因となります。閉塞解除は慎重に行ってください。
- 使用開始直前、開始ボタンを押してないにもかかわらず薬剤が大量に投与された。確認するとシリンジの押し子がスライダーフックにセットされていなかった。
- シリンジの押し子がスライダーフックから外れた状態で、シリンジポンプをベッドより高い位置に設置すると、重力によるサイフォニング現象（図 7）が起こり過剰投与の原因となります。
- シリンジをセットする際には押し子がスライダーフックから外れていないか確認してください。サイフォニング現象は、シリンジポンプをベッドと同じ高さに設置することで未然に防ぐことができます。

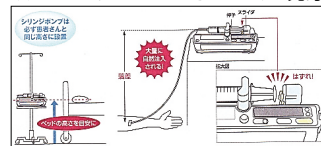


図 7 サイフォニング現象

診療看護師(JNP)の活動について～ご紹介～

救急科 診療看護師 竹田 明希子



今この「波と風」を手にとられている皆さんは診療看護師（以下JNP）をご存じでしょうか。名前だけでなく聞いたことがある、実際に知っているなど様々な方がいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は、私達が普段どのような活動しているか紹介させていただきます。

私は救命センター・外科で看護師としての経験を積んだ後、JNPの資格を習得するために東京医療保健大学大学院に進学し医学的知識や必要な技術を学ぶ機会を得ました。資格取得後の2013年から当院の救急科に所属し、2015年にはさらに1名のJNPが加わり現在2名のJNPが所属して、主に救急搬送された患者の初期診療や、救命センターやICUに入室が必要な重症な患者さんの診療に医師とともに携わっています。毎朝行われる救急科のカンファレンスにも参加し、治療中の患者さんの状態確認や治療の評価を適宜行っています。必要な検査や処置では可能な限り補助につき、医師からの状態説明時には立ち会って、患者さん自身や家族がどのように医師の説明を受け止め、今後の意思決定を行っていくのかについて患者さんや家族の目線から考えるようにしています。診療科に所属することで初期対応から退院まで継続して患者さんに介入できる強みがあり、多職種と協働できるように調整役になるのも自分の役割であると考えています。

またJNPは、これまで医師にしかできなかった侵襲的な医行為をいくつか行うことができます。例えば直接動脈穿刺による採血や、長期に渡り全身管理が必要な患者の血圧管理や頻回の採血が必要な場合に橈骨動脈路の確保を行います。輸液による栄養管理や周術期の薬剤投与経路として、末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル（PICC）の挿入等も

担っています。

当院は昨年度より、看護師特定行為研修施設となり、救急領域における特定看護師の養成を開始しました。JNPと特定看護師の違いは、資格を得るための教育課程や、取得後に実施できる医行為の内容が異なります。当院が開催している特定行為研修は10ヶ月間で、前半はEラーニングや各科目の演習・実習を行い、後半は特定行為が実際にできるようにベッドサイドで実習を行います。2名のJNPは特定行為研修の演習や実習を中心に指導医とともに育成に関わっています。

医師が従来おこなっていた医行為を「特定行為」研修を修了した看護師が担うことで、医師の負担軽減に繋がり、かつ看護師の目線を持ち合わせることで患者さんに安心感を与え、医師と情報共有を行うことができると考えています。

そして私自身はJNPとして、患者さんからのSOSを見逃さないように患者さんの元に足を運び、タイムリーに医師と協働し、診療及び看護実践支援に繋げることが目標です。



ベッドサイドでのPICC挿入の様子



うちの部署の 接遇キラリさん



看護部
4B 病棟
看護師
寺山 一誠さん

患者さんとのコミュニケーションを大切にし、少しでも笑顔を増やすことが出来るような看護を目指しています。

西岡 4B 病棟看護師長より

寺山君は4B病棟では数少ない貴重な男性看護師です。患者さんやスタッフからもイケメン看護師として人気者です。いつも患者さんに優しく笑顔で寄り添い、病棟の雰囲気のを和ませてくれます。4月からは3年目、リーダーとして活躍してくれると期待しています。



看護部
外来
看護師
上田みのりさん

外来には毎日多くの患者さんが来院されます。検査説明や問い合わせも多いため、丁寧な言葉遣いやわかりやすい説明、細やかな気配りを忘れず患者さんや家族の方の気持ちに寄り添えるよう日々心掛けています。

小阪 外来看護師長より

上田さんは、物腰も柔らかくいつも笑顔で、落ち着いて患者対応されています。配属先の外科外来でも、どんなに忙しくてもスタッフ同士協力し合い、声を掛け合い、常に明るい雰囲気活躍されておりとても頼りになる存在です。



臨床研修センター
臨床研修医（2年目）
福田 崇博さん

日々多くのことを学ばせていただいています。感謝の気持ちを忘れず診療にあたるよう心がけています。

水之江 臨床研修センター部長より

真摯に診療に取り組み、患者さんやスタッフに愛される、明るく、笑顔の素晴らしい先生です。



地域医療連携室
事務スタッフ
中川由美子さん

地域医療連携室は、当院と患者さん、地域の医療機関との連携の窓口となる部署です。直接お会いして会話するのではなく、お電話で声だけの対応になるからこそ、相手に寄り添い、丁寧かつ迅速に対応できるように心がけています。これからも、スタッフ一同協力し合い、患者さんが不安なくスムーズに受診できるように努めてまいります。

森下 前地域医療連携副室長より

思いやりがあって、物腰が柔らかく、とにかく聞き上手、困っているスタッフの動きをみてそっと、声をかけてサポートしてくれています。部署内の細かいところにまで気配りができる、本当に頼れる存在の中川さんです。

連携医療機関の紹介(にし耳鼻咽喉科クリニック)



2019年11月1日に呉市宝町に耳鼻咽喉科を開業させていただきました西康行と申します。2019年10月末まで約10年間呉医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科に勤務させていただきました。現在開業後2年余り経過しておりますが、開業当初より手術や高気圧酸素治療の適応患者さんを中心に紹介させていただいています。

当院は呉駅に直結したレクレ2Fにあり、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、耳やのどの痛み、難聴、めまいなど一般的な耳鼻咽喉科疾患を中心に診療を行っています。睡眠時無呼吸についても簡易モニターにて診断を行い、重症度に応じた診療を行っています。また耳鼻科用CTを導入して副鼻腔、中耳の炎症性疾患や顔面外傷の精査ができる体制を整えています。

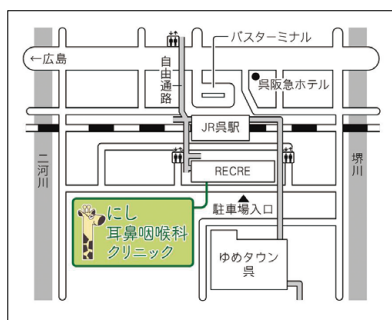
頭頸部腫瘍については呉医療センターでの勤務中に多くの症例を経験させていただきました。その中で、がんも含め頭頸部腫瘍については、早期発見により低侵襲な治療で根治ができることを実感いたしました。そのため当院では、必要に応じて頸部エコーやNBI内視鏡を行い甲状腺腫瘍や咽頭がんや喉頭がんなどの早期発見に努めています。頭頸部の表在がんが見つかるケースはまだ少ない



ですが、今後も詳細な観察を継続したいと考えています。

なお、耳鼻咽喉科・頭頸部外科立川科長にご高配いただき、現在も週1回非常勤として貴院耳鼻咽喉科・頭頸部外科に勤務させていただいています。勤務内容としては、主に内視鏡下の嚥下機能検査と、当院から紹介させていただいた副鼻腔疾患の手術に携わらせていただいています。開業後も手術に参加させていただく機会をいただき、大変感謝しております。

開業して数か月でCOVID-19の流行があり、開業には最悪のタイミングと言える状況ですが、COVID-19の疑いがある方の紹介についても迅速に対応させていただいており大変心強く感じております。地域医療に貢献できるように、スタッフ一同、今後も努力していきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



にし耳鼻咽喉科クリニック

〒737-0029 呉市宝町2-23-1 レクレ医療モール2F
院長 西康行

我が家の スターたち



保護者コメント

稜多朗は1歳1ヶ月です。ずらん園に通い始め、今では一番の年長さんになりました。入園当初はまだ歩けなかった稜多朗。今はたくさんのお友達とたくさん走り回って元気に遊んでいます。園ではお兄ちゃん、お姉ちゃんに囲まれて過ごしたおかげで、おしゃべりが本当に上手になり、大人顔負けの会話をして毎日笑わせてもらっています。怪我や大きな病気もせず、毎日楽しく通うことができているのは、先生皆様方のおかげと本当に感謝しています。これからもお友達と仲良く楽しんで遊んで、いっぱい思い出を作ってね。

濱安稜多朗くん



担任保育士のコメント

いつも明るくてお話し上手な稜多朗くん。今日はどんなお話をしてくれるかな…と毎日楽しみです。お父さんとエイサーに行った翌日は太鼓をたたく真似をして踊って、みんなを楽しませてくれます。お散歩や園庭遊びも大好きで、コンビカーに乗ったり、最近は三輪車にも挑戦してるね。そんな元気いっぱいの稜多朗くんは、大きくなったらおまわりさんになりたいんだよね。カッコいいおまわりさんになってね。これからもみんなとたくさん遊んで、いっぱい思い出を作ろうね。



清麻莉央ちゃん



保護者コメント

入園2日目から手を広げて自ら先生に抱っこを求めて行けるほど入園当初から保育園が大好きな娘です。毎日楽しそうにお友達と遊んでいることを先生から教えていただき、できることも増えしっかり者の娘に成長しています。3歳上のお兄ちゃんが大好きで、お兄ちゃんの真似ばかりしています。可愛い可愛い我が家のアイドル莉央ちゃん。これからもスクスク元気に成長してね。



担任保育士のコメント

いろんなことに興味をもって活発な莉央ちゃん。お友達のお世話も大好きで、帽子やコートを見つけると私たちより先に「どーぞ!」と渡してくれます。外遊びはすべり台がお気に入り、公園に行くとい人でどんどん上がっていきます。楽しそうにすべっている時の笑顔がとっても可愛いです。給食も毎日好き嫌いなく何でもパクパク食べておかわりもして元気いっぱいの莉央ちゃん。そんな莉央ちゃんに癒される毎日です。これからも一緒にいっぱい遊ぼうね。



2023年度 看護師&助産師募集

わたしたちと一緒に働きましょう!

採用試験日

2022年
7月16日(土)



インターンシップ開催日

4月28日(木)

5月2日(月)・6日(金)
27日(金)

6月4日(土)・18日(土)
28日(火)

7月2日(土)

プ
ロ
グ
ラ
ム

12:50~13:00 受け付け

13:00~13:30 病院・看護の概況、院内教育
について説明

13:30~15:30 更衣・病棟での看護体験

15:30~16:00 更衣・質疑応答・意見交換

16:00~16:30 希望者は病院内見学

★多数の参加お待ちしております★

※詳細はホームページをご覧ください。

※上記日にちで都合がつかない場合は調整いたしますので、ご連絡下さい。

実施場所 国立病院機構呉医療センター(場合によってWEB開催に変更あり)
看護体験はご希望部署(ご希望に添えない場合もあります)

感染対策 参加希望者は健康状態等を確認させていただきます

【申込先】 TEL:0823-22-3111 月~金 9:00~17:00

E-mail:506-kangobu@mail.hosp.go.jp



呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和4年1月~4月の間に、寄付をいただきました。

◆ご寄付 森本医院

(各科の基礎的研究と臨床研究、地域医療の円滑化に対するICT利用の研究のためとして)

みなさまからの気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編 集 後 記

令和も、はや4年度となりました。毎年の事ですが新人職員を見ていると、あらためて、より一層背筋を伸ばして、医療人・社会人として後輩の見本とならなければと感じております。マスク着用・院内黙食など、コロナ対応のためコミュニケーションが取りにくい環境ではありますが、アイコンタクト、しゃべり口調、身振り手振りなど、あらゆる方法でのコミュニケーションを考えて戴ければ幸いです。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。(広報委員会 委員長)